

コンテナ苗Q&A

岩手県でも普及中

1 コンテナ苗とは？

何らかの栽培容器で育成された苗は全てコンテナ苗ですが、多くの場合、コンテナ苗とは、マルチキャビティコンテナで育成された苗を指します（写真1）。

マルチキャビティコンテナとは、

「複数の」を意味するマルチ、「穴」を意味するキャビティ、「容器」を意味するコンテナが組合わさった名前の通り、複数の育成孔がある栽培容器のことです。

一つ一つの育成孔がバラバラにできるようなついで、それを一つのトレイにまとめて栽培できるようなついで、それをも含めます。

通常は、育成孔に入れる培地には重たい土は用いずに、ヤシ殻粉砕物やピートモスなどの有機物を用い、重量を軽減します。

2 ポット苗との違いは？

マルチキャビティコンテナの見た目は、ポットがたくさんつながった物の様に見えるため、従来のポット苗と同じだと思われるかもしれませんが。

一番大きな違いは、根の形状です。通常のポット苗は、根がポットの形に合わ

せて、ぐるぐると巻いてしまします。そうになると、植栽後に根が締め付けあう形状になり、その後の成長が良くなりません。

マルチキャビティコンテナでは、リブ（育成孔の側面内側にある縦方向に細長い突起）やサイドスリット（育成孔の側面にあけた細長い形状の穴）によって根が内部で巻いてしまうことが無いようになっています。

このため、植栽後の根の成長が良くなり、それに伴って樹高の成長も期待できます。

3 裸苗との違いは？

裸苗の根は比較的長く、活着に重要な細根は、根の先の方に多くあります。また根切り作業や仮植時の影響などで、偏っていることも多いです。このため、植栽後の根の成長を良くするためには、植栽時に比較的大きな穴を掘り、根を丁寧

に広げて植える必要があります。

一方、林業用のマルチキャビティコンテナは、育成孔の形が細長くなっていて、植栽時に大きな穴を掘る必要があります（写真2）。このため、コンテナ苗では、ディブルやスパードと呼ばれる植栽器具などを使って地面に小さな穴をあけて、そこに差し込んで軽く踏み固めるだけで良いので、技量を必要とせず、時間も短縮できます。同じ作業時間で裸苗の2から3倍植えることができます。



写真1 スギのコンテナ苗

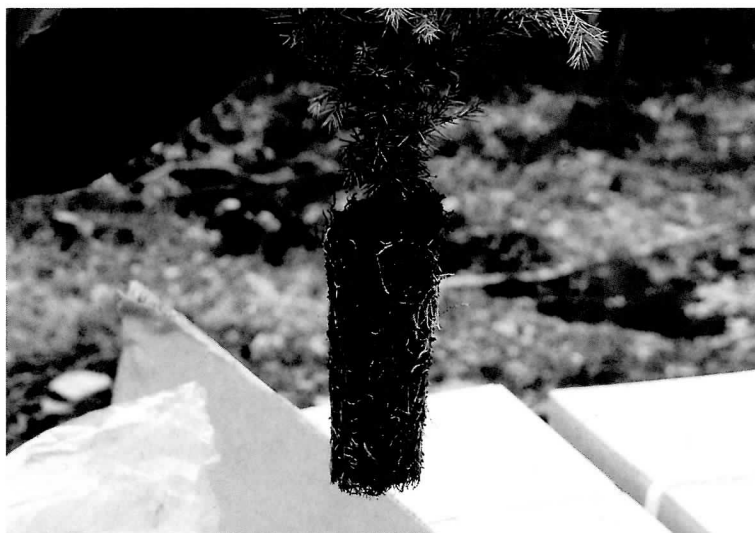


写真2 コンテナ苗の根鉢の形状



写真3 状態の良い苗（左）と悪い苗（右）

きます。

また、裸苗と異なり、根鉢があるので、活着や初期の成長が良くなります。スギの場合では、裸苗でも比較的活着や成長が良いので、あまり目立たないかもしれませんが、限られた時期しか植栽できない樹種でも、根鉢があることで植栽時期の自由度があります。例えば、クロマツは春期の芽が伸び出す前が植栽適期ですが、コンテナ苗では多少芽が伸び出しても問題ないですし、寒冷

地ではあまり適さないとされる秋期の植栽でも、裸苗に比べてずっと有利だと考えられます。

4 普及の課題は？

裸苗と異なり、まだ十分には育苗技術が確立しておらず、加えて苗の価格が高く、品質にばらつきもみられます（写真3）。それでも、この数年で生産量が急激に増えた九州のスギの挿し木コンテナ苗は、数年間で価格の低下や品質の向上を果たしているの、東北地方でも生産量の増加に伴って

価格の低下と品質の向上が期待できると思います。特に東北地方ではスギの実生による苗の生産が多いため、2年半から3年かかる育苗期間を、コンテナ栽培によって、1年から2年に短縮できれば、コストを削減できる部分もあります。

労働集約的な生産で効率をあげれば、裸苗よりも安くできることは、ヨーロッパの事例で既に証明されていますが、一方で初期の設備投資が必須であり（写真4）、苗

の生産業者には大きな負担になる部分です。

このため、単価が裸苗より安くなるまでにはしばらく時間がかかると思われます。現状では、林道や作業道からの距離が近く、運搬コストよりも植栽効率の方が重要な場合や、裸苗の植栽適期から外れた場合など、単価が高くても作業全体で見れば安くなる場面から使っていくなど、工夫が必要です。

5 岩手県でもちゃんと育つの？

現在岩手県を含む東北地方各地で裸苗とコンテナ苗の現地植栽試験が行われています。試験期間がまだ十分ではありませんが、少なくとも初期段階においては、スギ、カラマツでは裸苗とコンテナ苗で成長に大きな差はないようです。ただし、今年の初夏のように乾燥が続いた時には、植栽直後の苗の活着率がコンテナ苗の方が高い例も見られています。しかし一方で、コンテナ苗が徒長苗であったために、雪で倒れて下刈り時に誤伐率が高くなったような事例も報告されています。

まだ課題は残るものの、少なくとも品質の良いコンテナ苗であれば、



写真4 コンテナ苗の育苗施設の例

裸苗と同等以上の成長が期待できるものと考えられます。

岩手県産のコンテナ苗の品質も急速に向上しているので、今後はさらに利点が生きてくると思われます。

森林総合研究所東北支所

八木橋 勉

019 (648) 3941